

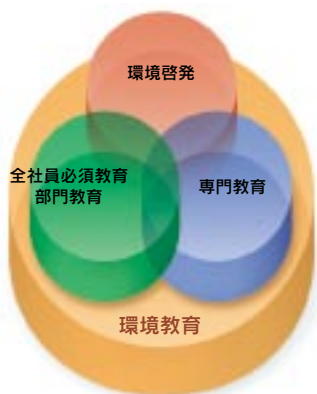
地球市民としての責任をもち、自ら環境経営を推進できるよう 社員の意識啓発に取り組んでいます。

全員参加の環境経営を实りあるものにするには、トップの意思表示や各部門での積極的な活動はもちろん、社員の意識改革も重要です。環境経営は企業としての活動ですが、実際は社員一人ひとりが行っている活動だからです。リコーグループには、全世界で約76,000人の社員がいます。社員の意識のもち方によって、同じ活動でも、その成果は大きく異なってきます。「地球市民」「リコーグループの社員」、そして「環境経営を推進するためのスペシャリスト」として、社員が成長していくための教育・啓発活動を行っています。

一般社員教育・部門教育

**アースコネクションツアーによる
社員意識の向上と環境経営の推進**
《リコーエレクトロニクス／アメリカ》
アメリカの生産会社リコーエレクトロニクス (REI) では、ビジネス、人、そして地球が調和する必要性についての社員意識向上と、継続的な環境経営の推進を目的として、「アースコネクションツアー」を実施しています。これは、環境経営に寄与する優れた改善活動を、実際に現場を見学して学びあい水平展開をしていく活動です。ツアーでは、各部門で、電気・CO₂・紙・水・廃棄物などの環境負荷とコスト削減に寄与する改善事例について、発案

者自身が、現場を見学を訪れた社長をはじめとするマネジャーに対し成果発表を行い、直接評価される機会を設けます。そして、ツアーに参加したマネジャーは各部門で事例の水平展開を推進します。REIでは、この「アースコネクションツアー」を年に6回行っています。また、とくに優秀な事例はリコーグループのグローバルな表彰制度である「リコーグループ環境経営活動賞*」にエントリーされる仕組みになっています。REIでは、環境経営に貢献した社員や部門を適切に評価する場を設けることで、環境活動への動機付けを図っています。 *: 62ページ



成果発表をするREI社員



リコーグループ環境意識調査の実施

《リコーグループ／日本》

環境経営を実現するためには、社員一人ひとりの環境意識が重要になります。リコーグループでは、環境意識が高いということを環境に関する知識をもち、具体的な行動もともなっていることと定義しています。自らの業務の中に、環境という視点を自発的に取り入れることができる社員の育成を目指し、環境啓発・教育を実施しています。2005年9月、より効果的な施策を展開していく目的で、日本のグループ社員を対象とした環境意識調査を行いました。職種別や部門別の状況などを分析し、調査結果を今後の教育施策やカリキュラムづくりに役立てていきます。

調査の設問(抜粋)

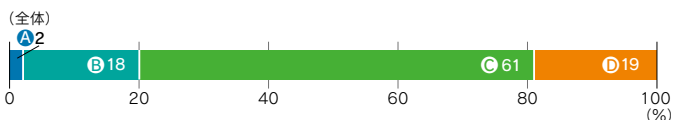
①「環境経営」という言葉とその具体的な事例についてのどの程度理解していましたか？

- A 人に説明できる程度に十分理解している
- B だいたい理解しているが人に説明できるほどではない
- C 言葉は知っているが意味はあまり理解していない
- D 知らなかった



② あなたは自分や家族のものを買うとき、できるだけ環境に配慮した品物を選ぶように心がけて行動していますか？

- A 価格にかかわらず優先して購入する
- B 少し高いだけであれば優先して購入する
- C 普通の製品と同じであれば優先して購入する
- D 特に商品の環境面は意識していない



リコーグループ環境経営大会 《リコーグループ／グローバル》

2006年2月、東京・大森事業所で「第12回リコーグループ環境経営大会」を開催しました。グローバル企業として全員参加の環境経営を推進するために、環境行動計画の説明や地球温暖化に関する最新情報の提供などが行われました。また、「第4回 リコーグループ環境経営活動賞」の表彰式も行われました。



リコーグループ環境経営大会の様子

欧州環境大会

《リコーヨーロッパ／欧州》

グループ内で活動方針や、EU指令などの法規制情報を共有したり、活動事例のベンチマークを行うために、欧州でも環境大会を開催しています。欧州極では2005年5月、イタリア・ストレーサに、



欧州環境大会の参加メンバー

販売会社および生産関連会社の環境担当者など61名が集い、温暖化防止やWEEEをテーマに事例発表や意見交換を行いました。今回の欧州環境大会では、会議開催にともない発生したCO₂を植林により相殺するという試みが行われました。会議参加者が使用した交通

機関や、会議場の電気使用量等会議開催にともない発生したCO₂約55トンと275本の植林を行うことで相殺し、実質的な排出量をゼロ（カーボンニュートラル）にしました。

環境啓発

リコーグループ環境経営活動賞 《リコーグループ／グローバル》

2002年度より「リコーグループ環境経営活動賞」を実施しています。この賞は、日常的な全員参加の改善活動を対象とする「環境経営改善活動賞」と、環境技術開発を対象とする「環境経営技術賞」の2部門で構成されており、両部門ともに環境保全効果および経済的利益創出の両面から評価が行われます。2005年度の環境経営改善活動賞・大賞は、「仕入先様の化学物質管理システム構築推進活動」が受賞しました。また、アメリカの



環境経営改善活動賞・大賞を受賞した
資材部門代表者と桜井社長（左から2人目）

生産会社リコーエレクトロニクス社の「トナー廃棄微粉のリユース*」が奨励賞を、スイスの販売会社レニエ・スイスの「エコドライブキャンペーン」も優秀事例として表彰されました。環境経営技術賞・大賞は、今年度は該当なしでした。 [*：43ページ](#)

欧州環境大賞

《リコーヨーロッパ／欧州》

欧州の地域統括会社リコーヨーロッパは、欧州極内のリコーグループ販売会社を対象に優秀な活動事例を表彰する「欧州環境大賞」を実施しています。2005年度は、スイスの販売会社レニエ・スイスの「エコドライブキャンペーン」が大賞を受賞しました。この活動は、社有車によるCO₂排出を削減する取り組みです。欧州環境大賞で評価された事例は、リコーグループのグローバルな表彰制度である「リコーグループ環境経営活動賞」にエントリーされる仕組みになっています。

専門教育

環境関連講座の開催

《リコーグループ／日本》

環境経営を推進するためのスペシャリストとして、それぞれの職場で、環境に配慮した物づくりや、適切な化学物質の管理を行えるよう、LCAやリサイクル対応設計などの環境関連講座を実施しています。

環境関連講座（受講者数）

講座名	2005年度 受講者数(人)
化学品安全と法規制対応(初級)	16
化学品安全と法規制対応(上級)	6
ライフサイクルアセスメント(LCA)(基礎)	20
ライフサイクルアセスメント(LCA)(応用)	6
製品環境影響評価技術(機器製品編)	16
環境関連法規	92
騒音(基礎)	20
リサイクル対応設計	22
OA機器における熱設計	17
リコーグループ製品含有化学物質 マネジメントシステム(概要)	40
合計	255